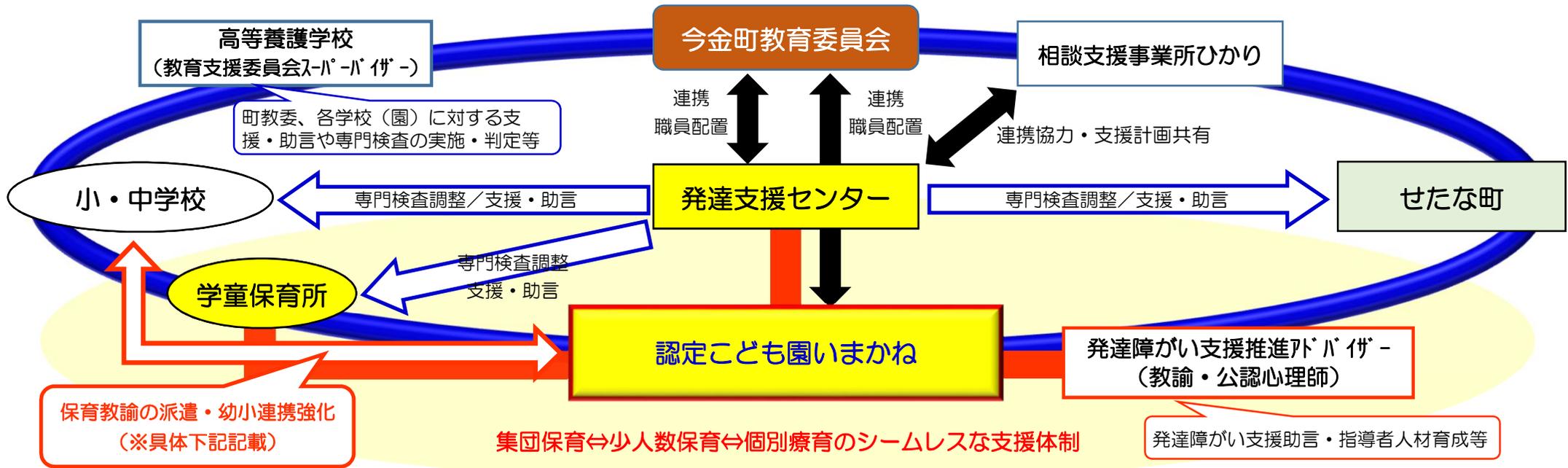


# ◆子ども子育てプロジェクト（子ども関係施設の運営一元化と支援の繋がり）



## 【子ども関係施設の運営一元化による効果・ねらい】

少子化により園児数が減少⇒保育教諭の適正配置に余剰が発生する恐れ⇒安定的な雇用形態を維持していくためには、多角的運営への転換が必要である。

- ①「学童保育所」については、1日における開所時間が4時間程度であり、将来的な認定こども園保育教諭のシフト配置による運営形態が考えられる。
- ②「子ども発達支援センター」については、発達障がいや発達の遅れ等から早期の療育を必要とする子どもが増加傾向にあるなか、現状3～4名の指導員体制で運営している。こども園等による集団保育（指導）の場面と一貫性のある支援に資するためにも、こども園保育教諭の発達支援センターへの配置や交流、研修制度等の仕組み（一元的な人材マネジメントによる）づくりから、個別支援や少人数指導と集団保育とのシームレスな支援体制の確保に努めていく。
- ③現在、安定確保が困難な傾向にある「特別支援教育支援員」の在り方について、発達支援センターを活用した人材育成等から、発達障がい児支援の専門性と経験を有した保育教諭を小学校へ派遣（こども園⇒小学校 ※学童保育所、発達支援センター巡回）する仕組みを構築する。このことから、園児時の様子を把握している保育教諭が支援員として小学校へ派遣されることにより、新1年生（普通学級）の気になる児童支援の充実と幼小連携の強化が図られる。また、学校での支援体験をこども園にフィードバックすることにより、就学にあたっての準備や幼児教育活動に活かされることも期待される。

町教育委員会、認定こども園（発達支援センター）の両者による協働・連携体制から人材の効率的・効果的なマネジメントを展開し、本町の子ども・子育て支援体制の維持・充実を図っていく。

# ◆子ども子育てプロジェクト（～効率的・効果的な人材マネジメントと子ども支援体制の強化～）

